

吉田誠夫 著

庾信——四賦注釈

哀江南賦

枯樹賦

小園賦

三月三日華林園馬射賦

A5・760頁 定価16,500円(本体15,000円+税10%)
ISBN978-4-8169-2923-6 2022年5月刊行

●六世紀、中国南北朝時代後期屈指の文人であった庾信(五二一〜五八二)の代表作「哀江南賦」「枯樹賦」「小園賦」「三月三日華林園馬射賦」の四賦について、逐語的に詳細な注釈をほどこした一冊です。

●清代の注釈書である倪璠の『庾子山集注』の成果をふまえて、初學者にも理解できるように基本的な故事来歴の説明やその原文も引用して解説。

●注釈の中では、庾信の他の作品も多数言及・引用。文人庾信の全貌を理解するためにも役立ちます。

「はしがき」より

本稿で扱った四つの賦は、以上の作品群に照らしてもわかるように全体を構成するごく一部にすぎない。しかし、「哀江南賦」では歴史の転換期にあつて時代とおのれの人生を緬い交ぜながら郷関の思いが述べられ、「枯樹賦」では異朝に仕えた者の虚ろな内面世界が象徴的にうたわれ、「小園賦」では隠逸の世界への志向が語られ、「三月三日華林園馬射賦」では北周武帝への讃歌が綴られるとともに、北周に仕えて生きようとする決意表明にも似た思念が示される、といったように庾信の全体像を考えるうえでそれぞれ重要な作品となっている。人間は矛盾の束であり多面的な存在であるといわれるが、この四賦は庾信作品から作りあげられた庾信の全体像のいくつかの側面を解き得る鍵として、庾信の代表作といつても過言ではあるまい。

「目次」

はしがき

凡例

『周書』庾信伝

滕王迥序箋注

哀江南賦注釈

枯樹賦注釈

小園賦注釈

三月三日華林園馬射賦注釈

梁朝王室(蕭氏)系図

参考文献

あとがき

●著者プロフィール

吉田 誠夫 よしだ・のぶお

1941年東京生まれ。二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻博士課程修了。みすず書房編集部、昂教育研究所、芝浦工業大学高等学校を経て、東日本国際大学講師、同大学儒学文化研究所副所長、2010年退職。2021年没。
編著書に『中国文学研究文献要覧 1945-1977 (戦後編)』([共編] 日外アソシエーツ、1979年)、『漢字辞典』([共編] 講談社、1998年)、『姜夔詞選』(芝浦工業大学・教員研究報告、平成8年度版)、『漢字のおさらい』(自由国民社、2012年)、『中国職官辞典 秦から南宋まで』(日外アソシエーツ、2020年)など。

2022.5

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

庾信——四賦注釈

哀江南賦・枯樹賦・小園賦・三月三日華林園馬射賦

定価16,500円(本体15,000円+税10%)

ISBN978-4-8169-2923-6

冊



9784816929236

〔第6段〕

王子濱洛之歳
 蘭成射策之年〔1〕
 始含香於建禮〔2〕
 仍矯翼於崇賢〔3〕
 遊滄雷之講肆〔4〕
 齒明離之胄筵〔5〕
 既傾蠡而酌海
 遂測管而窺天〔6〕
 方塘水白〔7〕
 釣渚池圓〔8〕
 侍戎韜於武帳〔9〕
 聽雅曲於文絃〔10〕
 乃解懸而通籍〔11〕
 遂崇文而會武〔12〕
 居笠轂而掌兵〔13〕
 出蘭池而典午〔14〕
 論兵於江漢之君〔15〕
 拭玉於西河之主〔16〕

王子 濱洛の歳、
 蘭成 射策の年、
 始めて香を建礼に含み、
 仍ねて翼を崇賢に矯ぐ。
 滄雷の講肆に遊び、
 明離の胄筵に齒ぶ。
 既に蠡を傾けて海を酌み、
 遂に管に測りて天を窺ふ。
 方塘 水は白く、
 釣渚 池は円なり。
 戎韜に武帳に侍し、
 雅曲を文絃に聴く。
 乃ち解懸にして籍を通じ、
 遂に崇文にして武を会す。
 笠轂に居て兵を掌り、
 蘭池に出でて典午す。
 兵を江漢の君に論じ、
 玉を西河の主に拭ふ。

〔哀江南賦注釈 第6段 王子濱洛之歳〕より

〔通釈〕

周の靈王の王子なる晋が洛水のほとりて遊んだ15歳のとき、わたしは、考試に応じて合格した。そして間もなく、官は尚書度支郎中に進み、さらに擢んでられて東宮學士へと羽ばたいた。その王宮にあつては、かの昭明太子の講筵に待するを得て、貴公子の列席に連なり、太子の智徳に触れたのであつた。しかし、太子の智徳の深さと大きさは、あたかも海の水を蠡で酌み、管で天を窺うにも似て、非才のわたしの理解を超えていた。方形の塘、清らかな水、釣渚の館、円い池。わたしは、參謀本部ともいふべき武帳で軍略のことに従事したり、朝廷の儀礼のときに演奏される雅曲を聴いたりした。このように王宮生活を心のおもむくままに過ごしつつ、

ようやく詩文にも深く思いをかけ、軍事にも通じるようになった。かくて、兵車の上で兵士の指揮をとり、また湘東王と水戦について論じ合つたり、外交使節として東魏に聘問したりしたのであつた。

〔1〕王子濱洛之歳 蘭成射策之年 兩句は、沈約(四四一〜五一三)「齊故安陸昭王碑文(齊の故の安陸昭王の碑文)」(『文選』卷59)の、

蓋同王子洛濱之歳 蓋し王子が洛濱の歳に同じく、實惟辟雍内侍之年 實に惟れ辟雍が内侍の年。という句にもとづく。「王子洛濱歳」について、李善(六三〇?〜六九〇)の注には次のようにある。

周書曰、晋平公使叔譽於周。見太子與之言、五稱而三窮。歸告公曰、太子晋行年十五、而臣不能與言。列仙伝曰、

■既刊

中国職官辞典
 秦から南宋まで
 吉田誠夫編

B5・740頁 定価34,980円(本体31,800円+税10%)
 ISBN978-4-8169-2841-3 2020.7刊